過去最多 大賑わいの１万１千人！

能登小木港イカす会

完成した作品にそれぞれの思いを

白山丸に乗船、イカ釣り機を見学

鼓笛隊の演奏が港に響き渡る

5月26日、石川県漁協小木支所で能登小木港イカす会が開催されました。

小木小学校児童による鼓笛隊が小木港周辺を行進し、イカす会の開催を告げ、能登高校書道部員が豪快な書道パフォーマンスを披露。今回のテーマ「繋(つな)ぐ」にちなんで、書道部や来場者が書道作品に寄せ書きを添え、思いをつないでいきました。

イベントはイカの一本釣りや、威勢の良い朝捕れイカのつかみどり、走れ！船凍イカ世界選手権や、イカ釣り漁船見学などイカづくしの楽しめる、小木ならではの「オギジナル」な企画がめじろ押しです。

県の調査船「白山丸」でのイカ釣り漁業体験航海や、イカを解剖して仕組みを学ぶ「めざせイカ博士！」、水槽のナマコやヒトデなどを触ることができる金沢大学臨海実験施設のコーナーなどがあり、多くの家族連れらが、海の生物とふれあいながら楽しく学んでいました。

炭火焼きコーナーやテナントには長い列ができ、新鮮な海産物に舌鼓を打ちながらイベントを楽しみました。過去最多となる約1万1千人が訪れ、イカを見て触って味わって、イカの祭典を満喫しました。

今年は地元の高校生たちが主体となって前夜祭も行われ、地域の賑わい作りに貢献しました。

地元高校生たちが自ら企画し、イカす会の前夜祭を開催

前夜祭ではイカ釣り船の灯りに照らされた会場で、御船太鼓が披露された（5月25日）

楽しくイカを学ぶ恒例イベント

時間無制限！イカをつかみ放題！

泳ぐイカを一本釣り！

イカに触れて生態を勉強

崩れないように慎重に運ぶ

今年もワクワクが盛りだくさん♪

ぶらり酒蔵めぐり

6月8日、数馬酒造、鶴野酒造店、松波酒造の町内3つの酒蔵が合同で開催する蔵開きイベント「ぶらり酒蔵めぐり」が開催され、町内外の来場者でにぎわいました。

今年で4回目を迎えた恒例イベントで、各蔵では振るまい酒や蔵見学、利き酒などをはじめとする、お酒に親しむさまざまな催しが行われました。酒蔵学校やなりきり蔵人コスプレなどのイベントや、イカのおつまみなどのグルメが楽しめる物販コーナーも設けられ、日本酒ファンのみならず、子どもたちなどお酒が飲めない人も、それぞれ楽しいひとときを過ごしました。

各蔵では、金沢星稜大学の学生ら9人が会場をサポートし、来場者と共に楽しんでいました。

各酒蔵の限定酒などが振る舞われた

蔵人になりきりパチリ

ゲームに挑戦して商品ゲット！

ゆきこの酒蔵学校で酒を学ぶ

酒蔵の内部を蔵人と一緒に見学

オリジナルラベルをお絵かき

金沢大学 理工学域 能登海洋水産センター　完成！

6月5日、越坂地内で金沢大学理工学域能登海洋水産センターの設立記念式が行われ、関係者約120人が出席し、完成を祝いました。

持木町長が、「当施設に多くの研究者や学生が集い、研究や開発が活発に展開され、地域と密着した新技術・新産業の創出や定住人口の拡大につながると期待しています」と式辞を述べ、金沢大学の山崎学長が、「水産業の盛んな能登町に拠点を設置できることにほれ込みご支援を受けることにしました。町の全ての方々に厚く御礼申し上げます」と謝辞を述べた後、関係者らが小木子ども園の園児と共にテープカットを行いました。

平成28年7月に能登町と金沢大学とで締結した「人づくり・海づくり協定」に基づき、海洋教育の研究拠点施設として建設されたセンターの総事業費は約6億1千6百万円、鉄骨造3階建てで、延床面積は約1,043平方㍍です。

センターでは、フグの養殖やイカを生きたまま全国に発送するシステムの開発など水産業の振興につながる研究を進める予定です。

第15回能登町消防団訓練大会

団員284人が訓練の成果を競う

宇出津新港水産埠頭で6月15日、第15回能登町消防団訓練大会が開催され、全16分団、284人の消防団員が分団の団結を確認し、日頃の訓練の成果を披露しました。

訓練大会結果

総合の部

①三波　②柳田　③岩井戸

ポンプ車操法の部

①三波　②松波　③柳田

小隊訓練の部

①三波　②岩井戸　③鵜川

ポンプ車操法の部で優勝した三波分団は、7月27日㈯、石川県消防学校で行われる、第67回石川県消防操法大会に出場します。皆様の声援をお願いします。

石川県知事表彰

銀盃を授与する表彰

▽濵谷貴之（宇出津第1分団部長）▽垣口孝明（上町分団班長）▽畑下大吾（秋吉分団班長）▽向　勇二（不動寺分団班長）▽濵口雅行（高倉分団員）▽谷内博則（山田分団員）▽西田　剛（高倉分団員）

永年勤続団員の配偶者等に対する感謝状

▽井佐喜代美（柳田分団長、井佐光幸の妻）▽馬場久美子（消防団本部長、馬場信義の妻）

石川県消防協会長表彰

優良消防団

▽高倉分団（坂下芳明分団長・団員24人）▽松波分団（金七祐太郎分団長・団員23人）

功労章

▽大瀧信男（秋吉分団長）▽西谷幸一（不動寺分団長）▽梅田真人（鵜川分団副分団長）

功績章

▽山田久就（三波分団副分団長）▽磯部貴之（白丸分団副分団長）▽石谷光男（岩井戸分団副分団長）

勤続功労章

▽出村喜一（宇出津第2分団部長）▽石渕浩司（山田分団班長）▽伊勢　実（宇出津第2分団班長）▽森本裕次郎（高倉分団員）▽鳴瀬健司（秋吉分団員）▽高木功次郎（宇出津第1分団員）▽玉地大輔（宇出津第1分団員）▽和田祐一（小木分団員）▽芳野瑛司（小木分団員）▽紺谷康洋（岩井戸分団員）

能登町長表彰

退職団員感謝状

▽柳瀬隆憲（元消防団本部副団長）▽北川盛一（元白丸分団長）▽天幸治嘉（元三波分団副分団長）▽堤　裕（元岩井戸分団員）

全国消防救助技術大会出場決定！

6月4日、県消防学校で開催された第45回石川県消防救助技術訓練大会において能登消防署から12名が出場し、ロープ応用登はんの部で垣内卓史・曽良歩夢チームが優勝し、山崎拓斗・中谷槇佑チームが3位、ロープブリッジ渡過の部で水元佑哉隊員、はしご登はんの部で東手雄大隊員が入賞しました。

ロープ応用登はんで優勝した垣内卓史・曽良歩夢チームは、8月25日に岡山県で開催される第48回全国消防救助技術大会へ石川県の代表として出場します。

全国大会での活躍を誓う
垣内隊員（左）、曽良隊員（右）

これに伴い、6月7日に役場能都庁舎で県救助技術訓練大会入賞報告式が行われ、隊員を代表して、垣内卓史隊員が持木町長に成績を報告しました。

全国大会での好成績を目指し、日々訓練に励んでおりますので、皆様のご声援よろしくお願いします。

もしもの時に身を守るための1分間の防災訓練
シェイクアウトいしかわ

日時　7月10日㊌
11:00から1分間

訓練放送に合わせて、「しゃがむ、隠れる、じっとする」といった「安全行動」をとって、各自がどう行動したらよいかを考える訓練です。

「やりたいこと」から能登の未来を考えよう！

2018年度のと未来会議の様子

「**のと未来会議**」は2030年の能登が若者の集う元気な町とするために、住民と行政が一緒になり、交流し学びながら、町の未来を「自分ごと」として話し合える場です。今年度は全5回の開催予定で、自身が持ち寄った「やりたいこと」ごとに参加者同士が対話を深め、未来を導き出します。

今回は、参加者自身が考える能登の未来を対話し、それらを鈴木さよさんによるグラフィックファシリテーションを使って共有（見える化）します。

会場には幼児〜低学年向けのキッズスペースを設けますので、お子様連れの方もお気軽にご参加ください。

問地域戦略推進室☎ 62-8512

2019年度 第1回 のと未来会議

日時　7月23日㈫　18:30 開場
19:00 開会

場所　役場能都庁舎4階　大集会室

次のような方は是非お越しください。

- やりたいことはあるがやり方を知らない
- 行動したいが勇気がでない、失敗が怖い
- 協働して物事に取り組みたい
- 会場の雰囲気を感じてみたい　など

詳細な内容は町ホームページをご覧ください。

まちの出来事

海難救助に感謝状贈呈
3 人の迅速な対応に感謝

5月23日、能登海上保安署で海難救助に携わった3人に感謝状が贈られました。

救助に携わり表彰を受けたのはいずれも新保在住の濱下幸清さん、少橋広之さん、薮下節也さんです。

3人は、5月9日に船体のバランスを崩して転覆し、海中に投げ出された男性を協力して救助し、転覆した漁船もえい航作業をして陸揚げを行い、二次海難の発生を未然に防止しました。

右から、濱下さん、少橋さん、薮下さん

お祝いに駆けつけた家族と記念撮影

新出ますいさん
大正8年5月生まれ　長寿100歳

5月26日、宇出津山分の新出ますいさんが100歳を迎え、鳳寿荘でお子さんとお孫さんがお祝いに駆けつける中、持木町長から長寿祝い状と花束を受け取りました。

棚木にあった銭湯「蒼湯（あおいゆ）」の番台にいた新出さんは、歌うこと、踊ることが大好きで「100歳まで長生きできたことと町長さんからお祝いしてもらって、夢のようです」と喜びを語りました。

小木小児童がイカ釣り船見送り
大漁と安全を祈って

中型イカ釣り船の出港シーズンを迎えた6月上旬の小木港では、船員の家族や地域の人が船を見送る姿がありました。6月3日には、小木小学校の児童57人が、今年新造された第86永宝丸の出港を見送りました。船から渡された紙テープを手にし、「イカがいっぱいとれますように」「いってらっしゃい」と元気に声をかけました。船はイカを追って日本海を北上し、北海道や東北沖などで操業します。

「いってらっしゃい」と手を振って見送る児童ら

みんなで笛を鳴らす練習をしました

宇出津小　防犯教室
不審者への対処方法を学ぶ

5月28日、宇出津小学校で珠洲警察署協力のもと、防犯教室が開催されました。

最初に不審者が校舎内に侵入したとの想定で避難訓練が行われ、児童らは先生の指示に従い、すみやかに体育館へ避難しました。体育館では、珠洲警察署の由井巡査部長による講話が行われ、実際に笛や防犯ブザーを鳴らしたり大声を出したりする練習や不審者にランドセルや肩をつかまれた際の対処方法を学びました。

高校生がふれあい看護体験
看護師の仕事を肌で感じる1日

ナイチンゲールの誕生日の5月12日は「看護の日」。この日を中心に全国で看護に関する事業が実施されています。

公立宇出津総合病院では5月24日、命の大切さや看護師の仕事を学んでもらおうと「ふれあい看護体験」が開かれ、能登高校と飯田高校の生徒5人が看護の仕事に理解を深めました。5人は病院施設の見学や患者とのふれあいを通じて看護師の仕事を実際に肌で感じました。体験を終え、生徒からは「やりがいのある仕事だと思った」「患者さんの笑顔が嬉しかった」などの声がありました。限られた時間の中で、自分の将来への思いを深めた1日となりました。

真剣なまなざしで血圧測定

手術室に入り、実際に使われている手術道具に触れてみました

患者さんとのふれあいも体験

カワヤツメ人工授精説明会　県立大学
地域の人たちに技術伝えたい

県立大環境科学科の柳井清治教授の研究室は5月10日、小間生公民館で、町野川に生息する国の絶滅危惧種「カワヤツメ」の人工授精説明会を開きました。

柳田河川漁協と輪島市の町野川漁協の関係者らが見入る中、大学院生の荒川裕亮さんが、捕獲した成魚から卵と精子を取り出し容器の中で混ぜ合わせました。荒川さんは「地域の人たちに人工授精の技術を伝え、激減するカワヤツメを復活させたい」と語りました。

人工授精に見入る漁協関係者ら

（左から）能登牧場、能登和牛改良組合、中瀬牧場の代表者

能登牛1000頭達成記念
功労者表彰　町内3団体

県産ブランド和牛「能登牛」の年間出荷頭数1,000頭達成を記念する行事が5月25日、しいのき迎賓館で開かれ、出荷目標の達成に寄与した（株）能登牧場、能登和牛改良組合、中瀬牧場は生産部門の功労者として谷本知事から表彰状が贈られました。

表彰された10個人・団体を代表して、能登和牛改良組合の中瀬晴夫組合長が謝辞を述べました。県では新たに令和4年度中の1,500頭出荷を目指しています。